

第2回旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮保存活用等検討委員会 議事録

- 日時 2013年10月30日（水）15:30～18:00
- 場所 札幌ユビキタス協創広場 U-cala
- 参加者 委員：小澤丈夫／北海道大学大学院工学研究院准教授
角幸博／北海道大学名誉教授
東田秀美／NPO法人「旧小熊邸倶楽部」代表
杉本雅章／札幌市観光文化局文化部長
オブザーバー：大島佳之／札幌市都市局建築部建築保全課長
渡辺一幸／北電総合設計株式会社
木本浩司／北電総合設計株式会社
事務局：西野、矢上、北村、田村
KITABA：神長、窪田、百瀬、三好

1) 開会

2) 検討事項と検討スケジュールの確認

3) 資料説明

(小澤委員長)

- ・ まず資料2（敷地の概要）と資料3（運営管理の状況）に関する質問を受け付けたい。

(東田委員)

- ・ 公園を計画する際に、旧永山武四郎邸と旧三菱鉱業寮の公園外からの視認性をあえて悪く計画したということから、簡単に木をまびいて視認性を良くすることは難しいという事が分かった。カフェなどに活用する際には、視認性が悪いことを分かった上でそれに対応した手法を取らなくてはならないという事が大きな課題だと思う。
- ・ 過去5年間の修繕の経費がとても安い、1年間の入場者数はそれなりに多く何千人も来ている。このことから来訪者の滞在時間はとても短いという事が読み取れる。今後來訪者数の増加や滞在時間をもう少し長く期待するならば、今後の修繕費をもう少し多く見積もらなくてはならないかもしれない。
- ・ 清掃経費の積算の実態が分かりづらい。実費も含めた委託費なのかどうかを明確にしたい。例えば多くの方が訪れて場を使用すると清掃経費は上がるのか。また、資料3の運営形態で『※H23, 24の警備清掃委託費』があるが、これは単純に人件費のみを指すのかどうかを教えてください。

(北村)

- ・ 2つの建物の清掃・警備を札幌市の通常の指名競争入札した結果、この額で業者が受託した。積み上げの部分は調べれば分かる。

(東田委員)

- ・ できればそれが分かるとありがたい。そして保存改修工事費が平成17年度の分しかないことに驚いたが、常日頃整備等を行わなくても大丈夫だったのだろうか。

(角委員)

- ・ 平成 17 年度の保全改修工事は永山邸の外壁や内部のプランの改修費でこれだけかかっている。三菱鉦業寮のほうは手を全く入れていなかったという意味だと考えられる。
- ・ 24 時間警備なので人件費がかかる。

(小澤委員長)

- ・ 資料 2 に関して、2 つの建物の視認性が悪いという現況を今後変えていくという可能性は視野に入れているのか。

(矢上)

- ・ 公園はみどりの推進部の管理下にあるため調整が必要な事と、実は都心における緑化率が低いいため、樹木の配置を変えたり間引いたりというのはハードルが高い。見通しが悪いという事に関しては剪定の在り方を考えることはできる。現況を変更することについて検討が出来ないという訳ではないが、ハードルが高いという事は理解頂きたい。

(小澤委員長)

- ・ 内部（建物部分）は歴史的な価値が高いので尊重し、外部（公園部分）は後からできているので少し手を入れても良いのではないかという事を前回は議論している。ハードルは高いが変更の可能性はあると理解する。

4) 議題 1) 旧三菱鉦業寮の建築的価値について

(小澤委員長)

- ・ 資料 4 について、今回事務局はグレード分けをしていないという事であるが、今後さらに詳細な調査をしていく上でそういったグレード分けができるようになると考えていいのか。

(窪田)

- ・ 詳細調査の際に重要な箇所やオリジナル（改修していない）の箇所は押さえ整理したいと考えている。

(東田委員)

- ・ ガラス、石、木などといった材料や技術は入らないのか。

(窪田)

- ・ 詳細調査と合わせながら整理していきたい。

(角委員)

- ・ 旧三菱鉦業寮の創建時の資料が無い点が気になる。創建時と現在の建物状態は同じかどうかという確証が欲しい。三菱鉦業株式会社の社史などに創建時の写真が一枚でもあれば検証できる。この機会にそのような資料の掘り下げが出来たらいいと思う。
- ・ 現況で大切な箇所は資料に整理されていると思う。これまでの調査では小屋裏や床下を見ていなく、詳細調査の際に共に整理して欲しい。使われている技術や可能な限り材集の特定はした方が良さだろう。そのようなことが整理されると建物を説明するストーリーにもなりう

る。

(窪田)

- ・ 三菱マテリアル、三菱資料館はあたってみたがめぼしい資料は見つからなかった。今後は三菱地所や昔の新聞を調べてみようかと検討はしているが今後も資料が出てくるのかは不明である。

(小澤委員長)

- ・ 天井裏などに入って調査すると、手間はかかるがそのあたりに関してはどうか。

(渡辺)

- ・ 耐震診断調査の際にある程度杭を確認せねばならない。小屋裏や床下も対象なので、調査の段階で検討する必要があるものや材料について明らかになった情報があればしっかりと整理し、今まで行った既往調査と合わせて報告したい。

(小澤委員長)

- ・ 写真等交えて詳細に整理して頂けるとありがたい。

(杉本委員)

- ・ 第一回の委員会では基本的に歴史的建造物の価値を尊重していくという方向で進んだ。現在、旧三菱鉱業寮の2階部分に関しては、おそらく創建時にかなり近い使われ方をしているのではないかと想定するが、1階の展示室2は現在物置として使われている。このような空間に対しては原型を求めるといよりも使い方としては利活用のほうを重視し、原形復旧を考えないという方針でも良いのだろうか。

(角委員)

- ・ 気になるのは展示室2の柱列が内側に一列にあるため、もしかするとここは和室だったのかと推測できる。活用の方法によっては原型に戻した方が良いかもしれないし、そうでないかもしれない。原形復旧した方が良いのか段階ごとに検討した方が良い。

(小澤委員長)

- ・ 1階の一部分で間仕切りが変わっている部分もある。なかなか今の段階では読みきれないところがある。

(杉本委員)

- ・ 資料5の今後の活用について、建築の歴史的価値を重視するという方向性はあるが、場所によっては活用を重視するなど場所による色分けをした方が良いのではないかと。

(小澤委員長)

- ・ その辺りは議題2)基本的な考え方のところで触れていきたい。

(角委員)

- ・ これができるとき、どういう部屋の使い方をしていたのか今のところ明らかになっていない。ある役職以上の人がクラブハウスとして使った、というイメージしか無いが本当にそうなのだろうか。もう少し具体的に分かれば部屋のグレードやヒエラルキーがつけられるし、以前

の使い方に合わせた活用をするという方がストーリーとしては美しい。三菱が所有する他の建物や同業が所有する建物で旧三菱鉱業寮と同程度の大きさと、木造でというものがあれば参考事例として比較することで、もう少し使い方が明らかになっていくかもしれない。

(東田委員)

- どちらかというと居住・集会所として使われた旧三菱鉱業寮と、貴賓室のような使い方をされた旧永山邸の2つの建物がセットで残っているという点をどこに整理したら良いのだろうか。このことを整理したほうが、旧永山邸は保存を重視し、旧三菱鉱業寮は活用を重視するのだという定義づけにもなる。

(角委員)

- ある資料に数行書かれている事では、貴賓室があったと記載があったが、旧三菱鉱業寮の中を捜したが見当たらず、おそらく貴賓室というのは永山邸の部分を指していたのではないかと想像しか出来ない。これも今回分かれば良いと思った。
- 今までには旧永山邸が明治の建築ということが重視されていたが、三菱鉱業が旧永山邸を取り壊さず、その価値を認識しながら寮を増築したということで、三菱鉱業が旧永山邸を購入した時のことが分かると、もっと2つの建物のセットとして価値は高まると思う。その時の思想的な話が一般的に社史等に数行書かれるはずだが見当たらない。しかし旧永山邸を購入しているということは会計処理上の書類が残っているはず。ただ、鉱山系の会社は貴重な資料を持っていても閉鎖的でなかなか情報を開示しない性質がある。
- 今回の資料に整理されているように見て取れる価値というのは、みなさん共有できていると思う。バックグラウンドや使い方が分かれば、活用した際にも理由づけができ、スマートな流れでみなさん納得するのではないかと。無い物ねだりかもしれないが。

(神長)

- 三菱資料館に資料を探しに行った際に、社史においては、三菱としては他の会社よりも北海道の鉱山開発が遅れ、道内の拠点を作るために札幌市内で良い物件がないか探していた所、永山武四郎邸が非常に堅牢で寸分の狂いも無いすばらしい木造建築だったので、それを購入して寮として使うために増築した、という記述にとどまっている。もしかすると三菱地所設計などに図面等々があるかもしれない、という話を編纂者から聞いたので少し範囲を広げて当たってみようと思う。

(小澤委員長)

- 後は同じ様な業種でも寮をつくる時にこういった歴史的建造物を買ってそれに増築するという例自体が少なければそれはそれで価値になる。ハードルの高い要求だが、事務局には引き続き可能な限り調べていただきたい。

5) 議題2) 保存活用の基本的な考え方について (保存・活用・管理運営方針)

(角委員)

- 資料5について旧永山武四郎邸は道指定の文化財で、旧三菱鉱業寮は現時点で何の登録も無

いが、それぞれの管理方法はこれまで通りに行なうのかどうか。その部分も保存活用の考え方に絡んでくるかもしれない。もしかすると2つの間に施設管理の図式が記載するべきかもしれないのでこの2つを絡めていった方が良いのではないか。指定管理者のイメージも迷っていることが読み取れる。そして登録を目標にしたいということだが、特に市としては問題ないのか。

(北村)

- ・ 戦略ビジョンの中にそういった記載はある。登録を目指すとする整備完了後、形が変化しないと判断できた時点で考えていく。

(小澤委員長)

- ・ 地域貢献や利用者に関しては方針の中に記載はあるが、基本的な考え方にはどちらかという歴史的な価値や保存活用についてが全面に出ているが、そこにも地域という言葉積極的に入れてもいいのではないか。例えば「観光スポット」という言葉は入っているが、外から来る観光客だけではなく、やはり地域の方にもという記述が合った方が良い。

(東田委員)

- ・ 『歴史観光スポットとして』という記述がありそこに焦点があっているので、違和感があつた。観光スポットとすることがメインなのかコミュニティカフェやコミュニティスペースにするとしても地域の方の利用がメインなのか、札幌市としてはどちらを主従に考えるのか。

(矢上)

- ・ そこまでの深い読みはない。旧永山邸や旧三菱鋼業寮はあの地域にずっとある。地域は二の次で、というような訳では決して無く、どちらも主であると言いたい。

(角委員)

- ・ 戦略ビジョンの中の一文中に書かれているが、資料にかぎ括弧で記載があるのでよけいにひっかかる。

(東田委員)

- ・ 札幌市としてそのような考えであれば、なおさら基本的な考え方の中に「地域の」という言葉を入れてほしい。
- ・ それから旧永山邸を保存重視とし旧三菱鋼業寮を活用重視とする根本的な考え方には賛成するが、「活用保存形態分離」という言葉遣いは適切なのか。指定管理者は1つなわけで何を分離するのだろうという疑問が浮かぶ。

(角委員)

- ・ あまりこのような言葉は聞いた事が無い。へりくつを言ってしまうと旧永山邸は公開ということも1つの活用なのだが保存の方がやや上ということで保存活用かもしれないし、旧三菱鋼業寮は保存しながら積極的に活用していくということで活用保存なのかなとも思う。いずれにしてもみんなの認識は1つなのだが、表現方法としてこの記載だとどうかと思う。でないと報告書提出の際に困る。

(小澤委員長)

- ・ この委員会は文化財課が運営しており、どうしても文化財というと観光のことにスポットが当たりがちである。まちづくりなどの都市計画の視点だと課は変わるが、この委員会でも地域づくりという視点も出てくるべきだと思う。諸外国の例を見てみると文化財を都市計画の課が扱っているところもあるので、こちらも意識的に地域づくりという言葉積極的に入れてアピールをして欲しい。

6) 議題3) 活用の基本方針の検討 (方向性と検討課題)

(東田委員)

- ・ 赤レンガから繋がってくる北3条通に関して、通り沿いのレンガの建物などとの関係性みたいなものを入れると良いのではないかと。地域貢献価値として苗穂地区のまちづくりについて記載してある中で、岩佐ビルやファクトリーについては記載があるが、その通りに関しては記載が無い。記載すべきなのか記載しなくても良いのか。

(角委員)

- ・ そのことに関しては、旧三菱鉱業寮というよりは旧永山邸に関連して、歴史軸というものがあって北3条通りにも説明板がある。それはおそらく自明の事柄ということで資料に書かれてないのでは。ただ、今レンガの前に広場空間が出来て、もしかすると通り自体の意味が少し変わってくるかもしれない。このことを多少意識した表現で記載した方がいいかもしれない。単発でなくて札幌の歴史の中のストーリーとして人を歩かせる流れが出来るように意識的な表現を用いた方がいいかもしれない。

(小澤委員長)

- ・ そういった札幌市全域の都市空間が資源になる、という広域から見ていく考え方は確かに説得力が増す。

(杉本委員)

- ・ 第一回でも少し議論されていたが、カフェ・レストランという機能が実際にここで成り立つという可能性はあるのだろうか。

(東田委員)

- ・ ファクトリーの中や岩佐ビルの中にもカフェやレストランは多く、需要は高い。当該建築物は公園の中にあることで視認性が悪く、それをあまり改善できないという条件の中で、例えば旧三菱鉱業寮がカフェやレストランとなっており、それがとても美味しい料理を提供し、有名なシェフの方がいるということになれば、建物と食べ物の魅力で人がたくさん入ると思う。
- ・ ただ、文化財を活用するにあたってカフェやレストランがメインで良いのかという話に戻る。やはり文化財は文化財の価値を残し、その一部にカフェやレストランがあってもかまわないと思うが、そもそもインフォメーション機能やコミュニティスペース、美術館も含む文化的なものの方がメインとなるべきだと思う。地域で活動している方々に重点を置いた活用があ

り、その上でカフェスペースや軽食がとれるスペースがあるという方が自然な流れであり、カフェやレストランをメインにするとすると、なかなか難しい場所である。

- ・ ファクトリーや岩佐ビルが近くにあり、ファクトリーは観光客にも人気であるし、岩佐ビルは景観資産になっており、オーナーや中に入っているテナントさん同士のつながりも強いし、外部の NPO ともつながりがあって非常に強い力がある。当該建築物は、インフォメーション機能などの文化的な活用があった上で、カフェやレストラン機能があるという形でないと、周囲の店舗には勝てないと思う。

(杉本委員)

- ・ そうすると、インフォメーション機能、コミュニティスペース、美術館のあり方が今後しっかりと整理されないとカフェやレストランは成り立たないということと理解した。中でも個人的にはインフォメーション機能は非常に重要だと思う。この場所はまちあるきウォークの1つのコースの出発点となっており、スタート地点としての機能をもたせるというような位置づけを考える等、ソフトの提案も考えていく必要がある。もう一つ、コミュニティスペースとしての機能も重要だと考えており、現在二階で開かれているお茶会のような貸館的なシステムが必要なのではないだろうか。インフォメーション機能としては周辺の苗穂地区に関してのことや、道庁からの歴史的なコースを出発点に歩ける様にするといったことも必要なのではないか。あとは観光客の集客を期待するならば、例えば豊平館のアンサンブルコンサートとかギャラリーといったような自主事業が入っていける方が良いと思う。今の展示室2ではそういった演奏会など芸術的な活動ができるのではないだろうか。

(東田委員)

- ・ 廃校利用を行っている活動のように指定管理者自身が NPO であったり、自主事業を仕掛けていく仕組みであれば可能かもしれない。ただ、月貸しと時間貸しでは、自主事業の手の入れ方の度合いが異なってくる。現在は単純な警備会社と清掃会社が担当しているが、旧永山邸と三菱鉱業寮自体を拠点にして指定管理者が事業も行なうし管理も行う、ということであれば可能かもしれない。ただ、時間貸しの場合、コンサートなりを行なうのであれば、個人的には永山邸の方が広いスペースもあるし雰囲気よく行なえると思う。清掃も活用も出来る人が管理者なのか、ただ清掃するだけの人が管理者なのか、という点で大きく変わるだろう。

(杉本委員)

- ・ 事業主体が中心となって管理していかなければ建物の活用できないのではないかと。場合によっては事業が行えるところが指定管理者となり、清掃や警備、カフェ・レストランなどの業務は委託でも良いのでは。

(角委員)

- ・ ここで忘れてはいけないことは、あの公園には普段地域の子どもたちが来て、旧永山邸で宿題をするなど長居をしている点。文化財がそのように使われているのは良いと思う。利用にお金がかかるようになる等、いろいろな事が制限されて今まで来ていた子どもたちが来にく

くなるというのはかわいそうだ。

- ただ、あの場に長時間いると、お茶を飲みたいという気分にもなってくる。例えば規模は違うが、上野の岩崎邸は一部屋だけお茶を飲むスペースはある。そういったお休み処のようなものは無いよりあった方が良さだろう。保健所との兼ね合いもあるが、カフェ機能をどこまで充実させていくのかをしっかりと考えなければならない。

(小澤委員長)

- 観光客のためのインフォメーションセンターとした時にここで何を展示すべきかという事を考えなくてはならない。例えば、永山邸とその周辺のことだけで良いのか、あるいは時計台のように農学校が出来た頃のこと全体が分かる様な展示であり、そこを訪れると札幌全体のこと分かる様になっているなどという事も出来る。札幌市という大きな範囲で見た時に、ここに何を展示すべきかということを考える必要がある。また、指定管理者には、様々な工夫を凝らして建物を活用してほしいということ。これは、事業もどういうことを期待して委託するのかという事まで検討しなければならない。また、先程角委員から出たが、子供達のための場というような地域の人の事も考えなければならない。札幌市、事業主体、地域という3つのバランスをとる事ができてはじめて可能になる取組みなのではないだろうか。どれが欠けてもいけない。

(角委員)

- 札幌市全体の観光案内のあり方を考えていくべき。例えばこの地区の拠点には旧三菱鋼業寮で、この地区の拠点は豊平館といったように、各地域の拠点があって、拠点から拠点へ足を運ぶとそこでまた新たな情報を得ることができる、というような見せ方も戦略としてはあるのではないか。そうすると、この場所は端ではなくかつての工業地帯で産業の中心であり、また屯田兵との関連もあるということが活かされてくる。一方ではそういった地区を語る情報があり、他方では札幌市としての位置づけがあるとソフトな側面にも展開していきやすいのではないか。
- 先程からこの場所ばかりを単体で考えているので視認性が悪い、というような議論が出ているが、個人的には囲まれていることはあの公園にとって逆に1つの魅力なのではないかと思ったりもする。建物内からの庭の眺めも良く、この辺りでこんなに緑が豊かなところもあまりない。

(東田委員)

- 曙小学校廃校利用の事例（あけぼのアート&コミュニティセンター）について、小学生がそこで宿題をしていると管理している者に宿題をチェックしてもらうことができる。またその後掃除をすると判子が押されて、それが3つたまるとそこに入っているコミュニティカフェでジュースがもらえる、という仕組みがある。そういう取組みが行える指定管理管理者であれば良いと思う。

(杉本委員)

- ・ コミュニティ機能をどう作っていくのか。貸し館でなくて地域の人のためのコミュニティ機能でも良いのかもしれない。それと、先程出ていた札幌の中での歴史的な位置づけを考慮する。また、豊平館みたいなギャラリーの場があっても良いのではないだろうか。そしてそういったコミュニティの場には食の機能が少しある方が良いと思う。

(小澤委員長)

- ・ 確かにコミュニティと事業は分けられるものではない。

(角委員)

- ・ 例えばガーデンパーティーを開催したい際に、あの公園のどこまでを使う事ができるのか、というような約束事が曖昧で分からない。庭をどこまで建物と一体的に活用出来るのかというところを、できれば確認して頂きたい。

(窪田)

- ・ 庭園部も公園の管理なので、公園の管理の課と協議にはなるが使い方についても検討していきたい。

(角委員)

- ・ フェンスはあるのでそこでしっかり分ける事も可能。建物の事ばかり考えているが、外部空間も上手く使えたら良いと思う。たとえばここにワイン醸造場があったのでワインの会を開催するとか。

(小澤委員長)

- ・ そのあたりは動き出す前に明確にしておいた方が良い。

(東田委員)

- ・ ちなみに豊水小の廃校活用は1年間で2.5人雇い、24時間対応だったが黒字だった。ここでは入居者全員が管理者であるという仕組みを作ったことで可能になった。旧星園高校（民活動プラザ星園）も黒字であり、9割ほどの教室をNPOが借りている。カードキーだが24時間対応で部屋をかして、居住は許可しないが泊まれる様になっている。同じ様な仕組みで、旧曙小学校（あけぼのアート&コミュニティセンター）は月貸しで、貸し賃を安くしていても黒字である。
- ・ それではここで本当に黒字が出せるか、ということを考えなければならない。先述の例が黒字なのはそもそも家賃収入があるので成り立っている。旧三菱鉱業寮でもし貸しスペースを時間貸しにしてしまうとかなり厳しくなる様に感じる。

(小澤委員長)

- ・ インフォメーション機能と指定管理者に事業をしてもらうこと、また地域の人たちの使い方と三位一体となって全体としてどういう方向で取り組んでいくのかを考える必要がある。例えば面積配分がどうで各部屋にどんな機能が入っていくのか、ということを一体的に考えて行かなければちぐはぐになる。方針のところ三位一体で考えるということに触れることは

重要であると考え。今の資料の書き方はすべて関連せずバラバラなので、これをどう統合していくかを考えなければならない。そして、資料 5-2 の美術館が気になっている。ギャラリーとしては地域内で成立するが、美術館のような固定されたものは、今までの議論の流れから見るとそぐわないのではないか。

(東田委員)

- ・ コミュニティ施設として使う中でギャラリー展示を行いたい人が使える様にするべき。美術館だけでは難しい。

(小澤委員長)

- ・ 少なくとも資料に掲載されている 4 つと同じレベルで美術館があるわけではない。

7) 議題 4) 前提条件について

(小澤委員長)

- ・ 床面積が 500 m²を少し超えているが、なんとか 500 m²以内に減築できれば防火上の対策もスムーズになると考えられるが、これは可能かどうか。

(渡辺)

- ・ 耐震診断調査が全て完了しているわけではないので、正確にお答えする事はできない。ただ、旧永山邸の方の押し入れと床の間と床の間が、旧三菱鉱業寮の領域なのか旧永山邸の領域なのかかわかっていないが、手の入れどころかなと思っている。あとは、一階の消火ポンプ室があるが、この面積が十分であればここを減築するのが一番合理的かと考える。

(角委員)

- ・ 押し入れと床の間と床の間は旧永山邸の部屋なので手を入れることはできない。管理室と旧永山邸の間の L 字型の廊下が場合によっては手を入れられる事になるかもしれない。消火ポンプは必要だろうと思うので、減築できるのだろうか。

(小澤委員長)

- ・ バリアフリーのためにスロープ等を入れると建物の形が変わってしまうが、それをどう考えるべきか。

(角委員)

- ・ 難しい。可能かどうかは分からないが、通用口の所から内側にスロープを入れられないだろうか。なるべく外には出たくないなので、何か工夫が必要。メインのアプローチ側につくるのは難しいのではないかと思う。

(東田委員)

- ・ 小熊邸はなるべく建築的に手を入れなくなかった為、置きスロープにした。当初は身体の不自由な方が来ときにスロープを置く様にしていたが、今は置きスロープを常設している。また、1階のトイレは車いすの方も入れる様に改修した。

(角委員)

- ・ ただここは土足ではないので、条件が少し違う。小熊邸は土足なのでそれが可能である。個人的には身障者は駐車場から入れないのか、ということを考えている。もしくは、ソフトの展開の仕方、介助者がいればこれくらいの段差なら大丈夫かもしれない。

(小澤委員長)

- ・ バリアフリー化を考える際に注意すべき事は建物の保存だけでなく歴史的価値である。今後段階を踏んでいく上でその都度考えていく必要がある。
 - ・ 今回の議論をまとめる
- ① 旧三菱鋼業寮の建築的価値については、今回まとめているもので現状で視認できる範囲はカバーしているが、材料や工法など見えない部分は今後の構造調査の際に確認する
創建時の姿とどのように使われていたのか引き続き調査を行う。同業他社の同じ様な施設があればそれも参考にする。
2つの建物セットである事の価値を意識しておく必要がある。
 - ② 保存活用の基本的な考え方について、管理の考え方と、今後活用していく上で考えなければならない「地域」を明確に記述
 - ③ 活用・基本方針の考え方について、苗穂地区全体、または市全体の中で当該建築物の位置づけを考え、その中でインフォメーションのあり方なども見えてくるのではないかと。
文化財の魅力だけでカフェやレストランの経営を成り立たせるのは難しい。もっと包括的に、札幌市全体の中で考え、どんなインフォメーション機能が必要かなどを考える必要がある。
また、指定管理者や NPO がどのような枠組みで自主事業を行なうかを考えることも大切。一方で主眼をそちらに置きすぎると、市全体で考えることや、地域での使われ方との三位一体が崩れてしまうのでバランスをとりつつ考えていく。
管理者は黒字を目指す必要がある。資料5-2にもそのような視点をいれてほしい。
 - ④ 前提条件について、500㎡超を減築して500㎡におさまると、防火の要件が軽くなるため、減築の手法は利用価値がある。
バリアフリー化を考える時に歴史的な価値とともに考える

9) 閉会

- ・ 次回の委員会は以下の通りに決定した。

第3回委員会 12月11日(水) 17:00～